

人と地域に支えられた50年の歩み

テントシートをはじめとした製品づくりと、イベント会場を設営する企業として、多くのニーズに応える山添シート内装。豊富なノウハウと実績を活かし、企画から設計、提案、施工、管理までトータルで実現しています。ここでは、今年で創業50周年を迎える同社の歩みと今後の展望について、山添道雄社長に伺いました。

■50年の歩み

昭和41年、ミシンの縫製職人だった祖母と父が元町で会社を立ち上げました。当時は、車のホロや車内シートの張り替えなどを主体とした業務を行っていました。

昭和46年に法人化した後、鎌田や宮瀬、井川城へと社屋を移

動。内装業を行っていた時期もありましたが、車内シートのニーズ減少やさまざまな要因が重なり、業務内容も徐々に変化。イベントの設営業務が増え、テントの所有数が増えてきたことから、平成2年に現在の場所に移ってきました。

現在はテントシート製品の加工からイベント事業、レンタル

事業を通して、より快適な環境と空間を創造する企業として、地域社会に貢献しています。

■前社長からの引き継ぎ

父親である前社長が病気で亡くなったのは、今から15年前。社長がまだ21歳のときでした。突然の出来事でしたが、幸い幼いころからテントの設置などを手伝っていたため、現場作業にそれほど困ることはありませんでした。

ところが経営となると話は別です。まったくの未経験だっただけでなく、前社長にしかわからないこともたくさんあったため、一時は売り上げがガタ落ちし、顧客離れも懸念されました。

しかし、地元大学に通っていた当時の知り合いや前社長の友人・知人など、多くの地域の方に助けられたこと。そして当時

代表取締役 山添道雄 社長



自社工場での溶接作業風景

全員辞めることなく8人の社員が支えてくれたことが、大きな力になったといえます。数年かけて新たな顧客も増え、横のつながりも広がりました。

■スペース(空間)をクリエイイト(創造)する

現在の同社は、テント・シート

の製造から各種イベントの設営まで、会場づくりにおけるあらゆるニーズに

応えるクリエイターに成長しました。

地鎮祭や会社単位の小さなイベントのほか、学校や町会、市町村単位のイベント、松本

そば祭りやクラフトフェア、松本山

雅FCの試合会場など、大きなイベントにも多数利用

されています。パーティーションやパネルを使った屋内

の会場づくり、イベントに伴うテーブル、椅子などのレンタルや、テントの販売も行って



一級帆布技能士が手掛ける縫製作業

■一貫した製造体制

「テントはあくまで仮設の構造物として、その立地や建物に合わせて設営するもの。雨風をしのぐだけでなく、防災、医療、建築、レジャーなど、その可能性は無限大です。多種多様な使い方ができるからこそ、そこに合ったものが必要であり、その対応力を問われるのです」と道雄社長。

一級帆布技能士の縫製工、溶接工など、職人の育成にも力を入れ、鉄骨加工からシート加工までテントを一から作る事ができる同社。また、豊富なノウハウと実績を活かし、軽いフットワークのもと、多くのニーズにきめ細かく対応しています。

この一貫した製造体制は、希望のサイズや色、形が自由自在であること、いざというときの補修に素早く対応できるという大きな強みといえます。時代が変化しても、このプロ意識が自信にもつながっています。

「安心・安全をキーワードに、とにかくお客さまに役立つ製品を作りたい!感動するようなサービスを提供したい!というのが弊社のモットーです。妥協



大型テント倉庫の施工現場

することなくスタッフともども日々精進し、これからも皆さまにご喜んでもいただけるサービスをご提案してまいります」と新年の抱負を語ってくれました。



テント・シート・イベント会場設営

株式会社 山添シート内装

SPACE CREATOR

〒399-0006 松本市野溝西3-5-39 TEL.0263-27-1197
電子メール/tent@yamazoe.net ホームページ/www.yamazoe.net